



雨を乞う

～水を求め続けた人々の祈り～

曲輪田大慈院



大慈院：山下汎樹さん



曲輪田：山中の雨乞い場所
お不動さん



大慈院雨乞い不動さん



曲輪田：小林勇太郎さん



News!

現在、安藤家住宅で市内在住の日本画家、村山明峰さんの屏風を展示しています。

文／写真／イラスト 文化財課

この場所が忘れられてしまおう」と話されます。現在も雨乞いが行なわれているのは上宮地だけとなりました。人々が命をつなぐために切実な願いを託したことを、その場所を、やり方を記憶にとどめ伝えゆくのは、まさに「今」なのでしょう。

供物を捧げ、さらに生木を燃やしてたくさんの煙を出したそうです。この煙がやがて雨雲となり、地上に雨をもたらしてくれることを願い、祈ったのです。この雨乞いは昭和30年代で途絶えましたが、近年まで毎年参拝を続けてきた曲輪田の小林勇太郎さんに、「お不動さん」と呼ばれるその場所まで案内していただきました。斜面を登ると鬱蒼と茂る木々の間に巨岩が現れ、そのたもとに石の祠がひとつ、落ち葉で埋もれかかっています。祠の正面には不動尊と彫られた文字があるのみ。すぐ隣には塩沢川が流れ、絶え間ない水音が山に響いています。この少し上流には鉱泉が湧く水源もあるそうです。人々が祈りを捧げてきた空間は、神秘的な空気に包まれていました。小林さんは「80代半ばとなり足腰が弱くなって自分が行けなくなりました。この場所が忘れられてしまおう」と話されます。

曲輪田の大慈院には、「西郡二十八ヶ村の雨乞い不動さん」と呼ばれる不動明王像が祀られています。この不動明王は曲輪田のある家の井戸から現れたと伝えられ、江戸時代には毎年8月に市川の代官も参列する盛大な祭りが催されていたといえます。山下汎樹方丈によれば、このお不動さんを背負って、曲輪田から約1時間かかる山へと登り、水が湧き出る近くでお不動さんを安置してお神酒や

細い雨がしとしと降り続く梅雨にもうすぐ入ります。外仕事や外出時には雨をわずらわしく感じることも多いですが、昔から雨は生きとし生けるものにとって恵みそのものです。とくに「月夜でも焼ける」といわれた極度の乾燥地域である市内では、大地を潤す水を求めて、古くから雨乞いの祈りがささげられてきました。

その場所はさまざまで、その方法も多様です。人は命をつなぐためにあの手この手で雨を降らせようとしたのです。各集落では、雨が降らない日が続きとそれぞれ氏神で雨乞いを行ないました。在家塚では、明治時代に夜の金比羅神社で裸になつて踊ったとの証言もあります。また野牛島では能蔵池で、加賀美では法善寺境内の島池でなど、水がこぼれんと湧き出す場所に集つての雨乞いもありました。

原七郷の村々で、「利益がある」と有名なのが、榎原の長谷寺です。明治時代の西野村では日照りが続くと、粟で作った11mもある竜を持ち、太鼓と鐘を叩き、ほうきでほこりをまきあげながら「ほうれつ、ふつてござった、天つくばった」と唱え、列をなして長谷寺まで練り歩いたそうです。

それでも雨が降らない場合は、山に分け入り、水の湧き出る場所を雨乞いの舞台としました。芦安の白根御池大龍権現(※1)や大嵐の大笹池、上宮地のお水神さん、樹形山中の儀丹の滝などがそうです。こうした原方の村々に対し、山裾一帯の根方の村々では、はじめから山中の水源地を雨乞いの場としていました。

曲輪田の大慈院には、「西郡二十八ヶ村の雨乞い不動さん」と呼ばれる不動明王像が祀られています。この不動明王は曲輪田のある家の井戸から現れたと伝えられ、江戸時代には毎年8月に市川の代官も参列する盛大な祭りが催されていたといえます。山下汎樹方丈によれば、このお不動さんを背負って、曲輪田から約1時間かかる山へと登り、水が湧き出る近くでお不動さんを安置してお神酒や



吉田：諏訪神社



加賀美：法善寺島池の竜神水



榎原：長谷寺とおびんずるさん
長谷寺のおびんずるさんは雨乞いの際に縛り引き回された。仏様が泣く涙が雨になると信じられていた。



大嵐：大笹池



芦安：白根御池
大龍権現



野牛島：能蔵池

※1 白根御池大龍権現は北岳山麓の白根御池に祀られ、その場所で雨乞いが行なわれていた。現在の石造物は、大正11年に参拝者の利便性を考え、集落に近い大石の地に移されたものである。